

カトリック千葉寺教会信徒の皆様

あの東日本大震災発生から半年が過ぎました。被災地では少しずつ復興への道を歩みだしていますが、地震や津波で大切な方を亡くされ、また生活のすべてを失った方々の心の傷が癒されるまでには、まだまだ長い時間を必要とすることと思います。また、放射能汚染のために住む場所を追われた方々や、原発の近隣地域に住む方々は、今なお見えない敵に対する不安な毎日を送っていることでしょう。私たちは被災した方々や、放射能汚染に苦しむ方々に心を合わせ、祈りのうちに過ごしていきたいと思えます。

この半年間、千葉寺教会の信徒の皆様方には被災地へのお祈り、そして物的な支援と、物心ともにささげてくださいました。しかしながら、被災地の復興、被災者の心の立ち直りにはまだまだ時間がかかります。この未曾有の震災に対して、今後も祈りと援助を継続していくことを望んでいます。また、これからも、被災者の方々と向き合い、共に歩いていきたいと思っています。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

災害支援対策グループ 担当：

## A. 教会支援活動について

去る7月11日、カトリック元寺小路教会（宮城県仙台市・仙台教区カテドラル）にて開催された「全国の教会が被災沿岸部を支援するプロジェクト全国担当者会議」において、全国の教会が管区毎に被災地域を担当し支援活動を進めていく方針が共有され、東京管区は、「宮城県南部から福島県」を担当することとなりました。（既報：「ボランティア通信 No. 10（7月14日号）」）

カトリック東京教区では、7月に幸田和生補佐司教様たちが福島県内の被災地を視察に出向かれ、今後の支援のあり方などに関する話し合いが行われました。

千葉寺教会はこれまで、同じグアダルヘ宣教会の主任司祭がいらっしゃるカトリック宮古教会の支援活動を中心に行ってまいりましたが、上記方針に沿い、福島県内の教会に対する支援にも心を配っていきたく考えています。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## ☆「カトリック原町教会」へ千羽鶴を送りましょう。

福島第1原子力発電所から30km圏内にある「カトリック原町教会」（福島県南相馬市）では、信徒の多くが放射能汚染から逃れるため、埼玉県、群馬県、東京都、その他の地区へ避難、また、東日本大震災により教会の建物自体も損壊、さらには放射線洗浄等を行わないとならないほど被爆しており、9月より着任なさった梅津神父様はじめ地域に残られた信徒＝被災者の方々は、今なお、日々放射能汚染の恐怖と闘いながらも、教会と地域のために祈りを捧げ、力を尽くしていらっしゃいます。

私たちは、その方たちのために祈りたいと思います。

そして、その心を届けるために、災害支援対策グループでは、この原町教会へ「千羽鶴」を送るプランをたててみました。

教会に来られた時、1羽でも結構ですので「折鶴」を折っていただけませんか？

教会聖堂入り口と地下ホールに“折り紙”を用意いたしましたので、お時間のある時に是非祈りを込めて折り紙を折っていただければ…と思います。

皆様のご協力をお願い申し上げます。